

鎌倉楽しむ会

三浦半島の歴史探訪

馬堀海岸から

観音埼灯台と

ゴジラの 足跡を訪ねる



(スタート) 京急馬堀海岸駅

平成30年3月28日

馬堀海岸駅



● 海岸という駅名がつきますが、昭和40年代以前までは馬堀海岸駅はその名の通り、駅からわずかの距離の海岸は、海水浴場として賑わっていた。その後埋め立て工事が始まり海岸線はフェニックス並木を設け、おしゃれな住宅地と化しました。

浄林寺



● 浄土宗、創建は戦国時代の永正2年(1505)です。寺宝や縁起・歴史などは火災によって消失してしまいましたが、芝・増上寺に浄林寺に関する古文書が遺されています。

ると伝えられています。
● ご本尊は阿彌陀三尊像で、江戸時代の承応3年(1654)の作。境内の右手に珍しいムクロジの名木が枝を広げています。ムクロジの果実の種は丸いので羽根つきの羽根玉に、果実は石鯪の代用に使われています。

馬頭観音堂(1)



* 掲示板より *

● 当山一帯の地は古来より観世音菩薩のご出現になれる霊地であると伝えられて参りました。

● その昔、房州嶺岡に「今の千葉県鴨川市江見町あたり」に凶暴な馬が現れ

住みつき村人はこの馬を「荒潮」と名付け恐れ近寄りませんでした。しかし、この馬がしだいに畑の作物を荒らすので、村人が追い出すことを決めました。馬は村人から逃げ海中に飛び込み浦賀水道を泳ぎ切った小原台の地にたどり着きました。馬は疲れと渴きを癒すため、傍らの岩を足で掘ったところ清水が湧き出し、その水で渴きを癒し見事な駿馬に生まれ変わりました。(次へ)

馬頭観音堂(2)



● この噂を聞いた時の領主・三浦荒次郎義澄公は、この馬を捕獲し、時の将軍・源頼朝公に献上したところ大変お喜びになられ「池月」と命名されました。

● 寿永3年(1184)1月、宇治川の合戦に際し、源頼朝公は、この「池月」を佐々木四郎高綱に与えられ「平家物語」に語られるように、梶原景季の愛馬「磨墨(するすみ)」と先陣の争いとなり、この世に名声を残すことになりました。

● 当所の「馬堀」という地名は、これより起こり、馬の掘った井戸は霊水が今も尚尽きることがありません。

● 浄林寺第37世祥譽泰隆代
平成14年4月吉日

● 馬頭観音堂の境内には、小さな観音像を中心に「馬頭観世音」と刻まれた石塔が江戸から昭和まで12基奉納され、現在も競馬騎手やファンが訪れるという。

(解説) 宇治川の先陣争い



● 治承4年(1180)8月源頼朝公が石橋山で、平家打倒を掲げ旗揚げした。同じ年の9月には木曾義仲公も旗揚げし、北陸地方の平家の領地を次々と討伐していった。これに対して平家は、鎌倉に進軍するが富士川で敗退していた。そんな最中、養和元年(1181)2月、平家の栄華を築いた平清盛公は64才で没し、ここから平家の陰りが見えてきた。

● 寿永2年(1183)5月、越中倶利伽羅峠の合戦で義仲軍は平家軍を圧倒し、

勢い余って、平家の棟梁になった平宗盛公の平家を京から西国へと追い出してしまふ。京を治めた義仲公であったが、京で育った経験はなく、宮家・公家の作法はもちろん、町屋の作法に疎く、田舎者として日に日に評判を落としていった。時の「後白河法皇」は秘かに源頼朝公に、義仲追討の宣旨を下していた。これに応えるように頼朝公は、弟の源範頼公を大手(瀬田の唐橋)から、搦手として義経公を伊勢から宇治へと進軍さ

せました。

● この時、義経公の軍勢に「池月」に乗馬した「佐々木高綱」と「磨墨」の「梶原景季」がいた。この両者は勇猛で聞こえ高かったため、お互いライバルとして、宇治川の敵陣突破の一番乗りを狙っていた。両者は激しく競合い僅差で「池月」が勝ったと平家物語に書かれ、この勝負は歴史に残されることとなるのです。この勢いで義経軍は、義仲軍を追い詰め琵琶湖の畔の粟津で義仲公を誅殺してしまいます。

旧水道トンネル



● 明治9年(1876)横須賀造船所(現・米海軍横須賀基地)のフランス人技師ヴェルニーが計画した軍用水道で、横須賀市内で初めて水道管を敷設したトンネルです。走水の豊富な湧水を7km先の造船所まで高低差10㍍の傾斜を利用した自然流下式でした。当初は高さ1.5㍍、巾1㍍、長さ320㍍、の一本の長いトンネルで、途中明かりとりの穴を設けました。明治29年(1896)東京湾要塞地帯として重要な走水・観音崎地区への車馬の交通路として現在の規模に拡張され二本のトンネルになった。(掲示板より)

走水水源地



● 写真は明治35年(1902)に完成したレンガ造りの貯水池です。その後には造られた国内で初期のコンクリート造りの浄水池は、いずれも国登録有形文化財となっています。昔から走水の湧水量は豊富でミネラルを含んで美味しく、水温は17℃とほぼ一定し腐らないと評判で外国船にも好評でした。湧水は枯れたという記録はなく、水量は一日2,000㍍あり、現在は横須賀市の非常時日の水源地となっています。

ヴェルニーの水



● 水は走水の湧水を利用した水道水です。明治41年(1908)12月、市営水道として、横須賀市内の小川町、大滝町、若松町の人々に給水しました。給水開始100周年を記念して、平成20年(2008)には一般に利用いただくように水道栓を設置しました。

御所ヶ崎・旗山崎公園



● 旗山崎の名は、日本武尊が上総(千葉)へ渡るとき、仮の御所を設け軍旗を立てたことから御所ヶ崎、旗山崎と呼ばれたと伝えられています。
● 日本武尊が上総(千葉)へ渡るとき海が荒れ難渋し、その荒海を鎮めるため、妃の弟橘命が身を投じると荒れた海は静かになり、日本武尊は上総に上陸できた。7日後に妃の御櫛が浜に漂着し村人は御陵を造りその

櫛を納めたと伝えられ、この地に橘神社を創建しています。
● 時代は下って、天正18年(1590)徳川家康公が江戸に入府し、走水には御船番を置き、向井政良が御船番・走水奉行を努め、のち三崎奉行も兼務しました。三崎は上り船を、走水では江戸に下る船を検査しました。今も同心海岸の名があります。天保14年(1843)川越藩が江戸湾海防のため台場を築き六挺の大砲を配備し異国船の侵入に備えました。明治になり新政府は軍用地とし砲台を築いた。その時、橘神社は走水神社に合祀された。

* 走水神社 *の由緒

(ホームページより)



● 走水神社は、12代景行天皇の皇子、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)と御後の弟橘媛命(オトタチバナヒメノミコト)二柱をお祀りしています。景行天皇即位40年、東国の騒動を鎮めるため日本武尊にその鎮定を命じました。勅命を奉じて日本武尊は、伊勢神宮に参詣され戦勝祈願をなし、神宮の斎宮であ

った叔母の倭媛命(ヤマトヒメノミコト)より神宝の雨叢雲之剣(アメノムラクモノツルギ)と火打袋を授けられ、東国に東征の軍を起こされました。途中、静岡(焼津)において賊にだまされ火攻めの難に遭遇されましたが雨叢雲之剣で草を薙ぎ払い、向火を放ち形勢を逆転させて賊を討伐したといわれ、これよりこの神宝を草薙之剣(クサナギノツルギ)とも呼ばれ、以来熱田神宮の御神宝となっています。

● 日本武尊一行は焼津、厚木、鎌倉、逗子、葉山を通り走水の

地に到着されました。ここに、御所(御座所)を建てました。(現在の御所ヶ崎と言われています)そして、軍船の準備をし上総に出発するときに村人が日本武尊と弟橘媛命を非常に慕いますので、日本武尊は自分の冠を村人に与えました。村人はこの冠を石櫃に納め土中に埋め、その上に社を建てました。(走水神社の創建です。)

● 日本武尊は、上総国へいっきに渡ろうと船出されましたが、突然強い風が吹き海は荒れ狂い軍船は波にもまれ進むことも戻ることもできず転覆するか



の危機に、日本武尊に付き添ってこられた御後の弟橘媛命が「このように海が荒れ狂うのは海の神の荒ぶる心のなせること、尊様のお命にかえて海に入らせて下さい。」と告げ、「さねさし さがむのおぬにもゆるひの ほなかにたちて とひしきみはも」と御歌を残し、海中に身を投げられました。たちどころに海は凪ぎ風は静まり日本

武尊一行のお軍船は水の上を走るように上総国に渡ることができました。以来、水走る走水と云われております。

● 上総、下総、常陸、日高見の国々の蝦夷を討ち平らげて大和に帰る途中、碓氷峠から遥か東方に光る走水の海の輝きを望み、その海に身を投じ武運を開いてくれた弟橘媛命を偲び「あ〜吾が妻よ」と嘆き呼びかけられたという。そして、これをもって東国を東(吾妻)「アズマ」と呼ぶようになったと言われています。奈良時代の初期に編纂された「古事記」「日本書紀」にも記されています。

観音崎京急ホテル



● 開業は昭和 60 年(1985)。地下一階-地上三階のリゾートホテル。温浴施設「SPASSO」を併設。「レストラン浜木綿」のランチはバイキングで多彩なメニューを揃え、水曜日はレディースデーとして 1980 円(込々)のお値段でサービスしています。

横須賀美術館



● 平成 19 年(2007)に横須賀市の市制 100 年を記念して開館しました。県立観音崎公園内の海と緑に恵まれた風光明媚な環境の中に立地し広々とした芝生や美術館屋上から眺める東京湾は、まさに絶景！全国の絶景美術館トップ5にも選ばれているようです。別館として、谷内六郎館が併設されています。

観音崎公園の歴史



● 三浦半島の東端、東京湾に突き出た岬にある公園で、昭和 50 年に完成した。広さは 70.4ha です。観音崎には江戸湾警備のための船見番所や台場が設置されたのは文化 9 年(1812)。幕末から第二次大戦が終戦になるまで(昭和 20 年 8 月 15 日)までは砲台が築かれ、一般人は立ち入りできない要塞となっていた。そのために自然が良く残されています。

東京海上交通センター



● 東京湾を航行する船は一日 600~800 艘の通行量があり、その安全をはかるため、レーダー等により船の動向や気象などの情報を提供し、海上交通をコントロールする施設で、昭和 52 年(1977)に設置されました。

観音崎灯台



●明治元年(1868)に起工し、翌年の 1 月 1 日に我が国最初の洋式灯台です。建築の担当はフランス人技師ヴェルニーでした。その後、震災で 2 度崩壊し、現在の灯台は、大正 14 年(1925)に完成した。高さ 19 ㍎・光達距離 37 km。映画「喜びも悲しみも幾年月」(1957)のロケ地として知られています。

展望園地

観音崎自然博物館



● 展望園地は浦賀水道を行き交う船を眺める適地です。
● 横須賀・観音崎自然博物館は三浦半島の動植物(陸上植物・海藻・海の生物・昆虫・両生類・は虫類)を生きている状態で展示しているのが特徴的な博物館です。

たたら浜



● 観音崎の「たたら浜」は水の透明度が高く美しいビーチです。海水浴ができます。上の画像は、嘉永六年(1853)ペリー提督の率いるアメリカ海軍インド艦隊の黒船来航のモニュメントです。●映画では昭和 29 年ビキニ環礁での水爆実験で古代からの眠りから目覚めたゴジラが観音崎たたら浜の沖に姿を現した。そのゴジラの足跡が残されている。

【 完 】

* 参考 * 「日本書紀」の日本武尊の東征(走水神社 HP より)



● 「日本書紀」での日本武尊の東征(東国征伐)は、景行天皇 40 年、日本武尊は熊襲を平定した後、東国の騒動を鎮めるため、自ら征伐を申し出る。伊勢神宮を拝し、叔母の倭媛命から草薙剣を授かる。一行は駿河国(静岡県)に着いた時、土賊に欺かれ焼き殺されるようになるが、尊は迎え火をつ

け難を免れた。そこを名付けて焼津(焼津市)という。● さらに、相模国(神奈川県)に進まれて、船で上総に向かう。海の中ほどまで来ると突然暴風に遭い、途方にくれた時、弟橘媛という妾(つま)が「これはきっと海神の仕業に違いありません。私の身を尊の身代わりに海に入らせてください」と申し上げた途端、海中に身を投げられた。暴風はたちどころに鎮まり、尊一行は無事上総に渡ることが出来た。● 時の人

は、その海を名付けて馳水(走水)といった。
●その後、東北地方を平定し、常陸国を経て甲斐国、上野国を回り、碓氷峠に入った。その折、東南を望まれ弟橘媛を偲び三度嘆いて「吾婦(あずま)はやくわが妻は、ああ」と言われた。そこで、この岬より東の諸国を名付けて「吾婦国」というのです。信濃国で邪神を倒し尾張国に入る。近江国の伊吹山で病を得て、伊勢国の能楽野(のぼの)で亡くなられた。時に御年三十。

弟橘媛命の御歌



● 写真は走水神社にある記念碑です。明治 43 年(1910)東郷平八郎伯爵、乃木希典伯爵等發起人の列席で除幕式が行なわれています。御染筆は昌子内親王(明治天皇第 6 皇女)